発達支援コラム №32

焼津市の通級指導教室（ことばの教室・まなびの教室）の担当者として、
多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で
大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、
わかりやすい言葉で書いていただきました。

「環境の変化に備えよう」

以前、中学１年生の保護者と話したことを思い出したので紹介します。どちらの事例も、10年ほど前のできごとです。

～中学校の定期テスト～

初めて定期テストを受けたAさん。問題用紙と回答用紙が別々になっており、小学校６年間に「テスト」として受けてきたものとスタイルが違っていた。Aさんは、どの問題の答えをどこに書いたらよいのかわからなかった。また、テスト開始前に10カ所ほどの訂正が指示された。聞き取りの苦手な彼はテストが始まる前に混乱を起こしてしまった。

１年に一回行われるようなテスト（定着度テストや学力・学習状況調査）を見ると気が付きますが、小学校の子ども達は、問題用紙と回答用紙が別々になっている形式のテストには慣れていません。（通級指導教室でも、問題用紙と回答用紙が別々のテストのあとで、「答えをどこに書いていいかわからなかった」と話した子がいました。）

Ａさんは、練習を繰り返し、慣れることで自分の力を徐々に発揮できるタイプ。定期テストの前に、テストのスタイルを知り、慣れておけば結果は違ったかもしれません。また、できることならば、テスト直前の訂正は減らす、あるいはなくすように、努めていかなければと改めて感じました。

～制服～

指先に不器用さがみられるＢさん。中学校に入学して２日で登校渋りをおこしてしまった。
彼は、ズボンのベルトをスムーズに通せないこと、ワイシャツや学生服のボタンをスムーズにはめられないこと等に、これからの中学校生活での不安を大きくしてしまった。中学校へは制服をきちんとしたスタイルで着て行かなくてはならないとわかっている分、何分も何十分もかかって着替えをすることを想像していたたまれなくなってしまったのだ。

保育園や幼稚園には指定の園服があるところが多く、指定の校服がある小学校もありますよね。我が家の娘達が通った保育園にも小学校にも指定の園服、校服がありました。毎日のボタンをはめたりはずしたりする行為は指先のいい訓練になっていたことでしょう。中学校で指定されるワイシャツやブラウスのボタンは園や小学校時代のものと比べると大変小さくなっています。利き手ではない手でボタンをとめるのは難しいと思うことは大人でもあります。ましてや着慣れない服をやっとの思いで着るのはものすごいエネルギーを費やすことでしょう。

Ｂさんは、制服を着たり脱いだりすることの練習をして、事前に制服の着脱に慣れておけば不安を大きくさせずにすんだかもしれません。

通級指導教室には、環境の変化に弱い子が大勢通ってきます。 大小の違いはあっても環境の変化に弱い子は、どのクラスにもいるはずです。そのような子ども達のために、どんな準備が必要かを考えたり、支援を行ったりすることで、スムーズに進学・進級できる子が増えるのだと思います。